

## チェックテスト 解答

### 2章 作業療法の歴史

#### 1 作業療法の歴史 (p.37)

①

フィリップ・ピネル

②

移導療法

#### 2 日本の作業療法①肢体不自由児の作業療法 (高木憲次) (p.51)

①

肢体不自由児の治療は長い年月を要するものであるため、「治療」「教育」さらには社会生活を営む手段として「職業指導」が必要であるということ。

②

好意の無関心。

③

すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。

④

本人の希望や必要性をよく聞き、取り入れること。

⑤

療育事業に携わるすべての領域の専門職種が、その時代ごとの知識と技能を常に研鑽し、提供し合い、全人的・全児童的視点に立ってトータル・アプローチを行う必要性とその責任。

#### 3 日本の作業療法②結核の作業療法 (野村実・田澤鏖二・濱野規矩雄) (p.62)

①

昭和初期には、病気が治りかけると退院してすぐにでも生活のために働かなければならな

い貧しい患者が多く、その人たちが社会や家庭に戻る準備のために、医療的管理のもとに適切な作業を行うことが必要とされた。

②

田澤はそれまで漠然と道徳的、社会的に好ましいとされてきた「作業」の効果を当時の医学的検査方法を基に検証し、「作業療法」の社会的意義を明らかにした。

③

当時は現在のような結核に対する効果的な薬剤がなく、結核傷痍軍人の社会復帰のために国が全面的に作業療法を取り入れた療養所の建設を押し進めたため。

④

1942年、傷痍軍人東京療養所の医師である宮本 忍によって提唱された概念である。医学的に治癒していなくても、社会活動が問題なくできるのであれば、それをもって従来の「医学的治癒」とは別に、社会的な意味において「治癒」を認めようとするものであり、今日のリハビリテーションの考え方に通じる。

#### 4 日本の作業療法③「リハビリテーション」と作業療法 (砂原茂一) (p.67)

①

戦後、ストレプトマイシンなどの結核治療薬の登場や生活環境の改善などにより、結核患者の数が減少し、入院期間も短くなり作業療法を必要とせず退院する患者が増えたこと。

②

リハビリテーションは患者の発見から社会復帰に至る全過程にかかわるものであり、決して治療が終わってから行われる活動(後療法)ではない。

#### 5 日本の作業療法④身体障害の作業療法 (田

## **村春雄・原 武郎) (p.79)**

①

身体障害者福祉法（1949年）によって更生指導所が都道府県に設立され、そこで「職能療法」として作業療法が初めて一般を対象に行われた。さらに1960年に九州労災病院で組織的な作業療法が開始された。

## **6 日本の作業療法⑤リハビリテーション学院の設立 (p.84)**

①

作業療法が個々の障害に付随した技術ではなく、さまざまな障害を対象とする独立した技術であることとされ、さらに国家資格化されることにより社会的に認知されるに至ったこと。